

■支部報告■

関東支部 甲州を巡る

(10日22, 23日秋の見学会)

好天に恵まれ、支部長以下40名、協会の名花2輪を添えて、新宿からバスは一路山中湖方面へ向かう。紅葉を始めた樹林から突然鮮やかな黄色の大工場が出現。ファナック(株)のロボット工場であった。さすがサッチャー英首相も目を見張っただけあって、ロボットがロボットを作っている。しかもそれは単純な流れ作業ではなくて、部品が無人自動車で運ばれる。ロボットが黙々と加工する。黙々と組み立てる。人はチラホラいるが何しているのやら?それも夜間は皆無とか。これがファナックの誇るFlexible Manufacturing System。ロボットが多量少量生産をこなす効率的な方法という。

ロボットは飯を食わないが、人間様は健康食ホウトウをたら

ふく食べて山梨県立研磨工業指導所に向かう。今や原石は99%海外からだが、伝統工芸は年額800億円とも1,000億円ともいう。球や板のカット、孔あけ、磨きなど加工機の原理が面白い。宝石の鑑別技術も合成技術との違いが何か。

見学会の最大目的(?)は、石和温泉での懇親会。『関東支部見学会は中味が濃すぎて若い者には譲れない!!』など名(迷)論続出。『何、飲むときはただの人』と和気あいあい。山梨大学の滝先生心づくしの甲州ブドウはさすがに土地の味。部屋では互いに酒のウンチクをかたむける。

明けて23日は、待望のサントリーワイナリー。広大なブドウ畑にマッチした工場は、なぜか今朝見たミレーの絵(山梨県

立美術館)とダブる。案内嬢も利き酒の訓練を受けるとか。

昇仙峡を散策後、再び甲府市内の宝石会館へ。昨日の教訓『宝石は楽しみ以上で買うべからず』と念じつつ掘り出しものを物色。“嗚呼、平均的セラミスト達!!”(失礼)。6時15分無事新帰宿着。幹事ごころうさん。(有馬純一 記)



ファナック(株)富士工場にて